

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2025年3月25日
作成 高齢者支援センター	忠生第1高齢者支援センター
作成者	神成 泰行

1.開催日時	2025年3月15日	(土)	14:00	～	16:00
2.会場	忠生市民センター・オンライン				
3.主催センター	忠生1	・	忠生2	・	
4.参加人数	50				
5.参加者内訳	☒ 高齢者支援センター 9人 ☒ 医療と介護の連携支援センター 2人				
	☒ 医療関係者 8人 (うち、医師 1人) ☒ 介護事業者 9人				
	☐ 民生委員 人 ☐ 老人会 人 ☒ 住民 2人				
	☒ 町内会自治会 15人 ☐ 警察 人 ☐ 行政 人				
	☒ その他 (障がい者事業者5人)				
6.開催テーマ	支え合いの町忠生「災害と感染症の中での私たちの暮らし」				
7.地域課題	(1)課題設定の背景 災害時の自助・共助への備えについて、全体的に見るとまだまだ意識が低く、備えを実行していない現状がある。災害時には救急・消防・警察も来ることができないことを知り、それぞれで実行できる自助について知恵を出し合い、それぞれの立場でどのような協力ができるのかを検討し、実行に移していく必要がある。 (2)検討した地域課題 災害時に行政の支援が届かないであろう72時間を、地域住民がどのように行動したら生活を継続できるのか。				
8.会議の内容	本会議：集合(場所:忠生市民センター)・オンライン参加(オンラインメンバーでGW) ①西村内科西村医師より、前回の本会議では災害時の自助について話し合ったが、今回の趣旨として「小さな共助を考える」をテーマに、災害時自分たちの身の安全を確保した後、自分の属する組織で次にどう動いていくかを話し合い、それぞれで発表することでお互いの共助を考えていくためにGWを行うと説明。 ②地域ケア推進会議実行委員により作成した、前回の本会議以降に地域に発信するためのツールとして、「支え合いの町忠生災害時に用意しておきたいもの～忠生版～」の説明をし、町プロで作成したお薬手帳カバーに入れて参加者に配布。 ③グループワークメンバー構成：町内会自治会G、医療関係G、障がい者事業所G、介護保険サービス事業所G、居宅介護支援事業所G、オンラインGで計9グループ作成し、ファシリテーターは実行委員より選出。 想定：「平日午後2時に震度6強の地震発生、直後より停電、電話は不通。水道も断水。119番、110番も繋がらず。主要道路は通行止め。72時間を自助共助で乗り切る」とし、GWを行う。GW後全グループが発表共有する。 ④西村医師より総評。				
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	・「支え合いの町忠生災害時に用意しておきたいもの～忠生版～」(リーフレット)は、本会議の参加者全員に配布した。このリーフレットは災害時に必要な自分の飲んでいるお薬の中で切らしてはいけない薬を主治医と一緒にチェックして、必ず備えることを地域住民へ周知するために前回の会議で作成された。今後実行委員会で具体的な配布方法を検討する。このリーフレットは、忠生圏域だけでなく、お薬を飲んでいる人が対象と考えるため町田市全域で展開できるよう町プロに提案していきたい。				
10.その他					

医療と介護の連携支援センター 確認日	3月 31日
--------------------	--------